

平成24年度 フォーラム

2013年2月19日にまいどむ大阪にて恒例の橋会フォーラムを実施いたしました。

今年の医療法人橋会のフォーラムは、「心新たに 心ひとつに 橋会」というテーマで開催。各施設活動報告、永年勤続表彰などのイベント、午後からは、不整脈治療、救急総合診療部による学術講演が行われました。特別講演には「ディズニーランド流 顧客満足向上策 ～サービスを向上させるには～」がありました。本講演には、元(株)オリエンタルランド理事 キャリア教育センター代表 竹内 昭氏をお招きし、ディズニーランド人気の裏舞台について長時間にわたりお話いただきました。



新保育所披露会 平成24年度終了式

当院の敷地内に東館が新たに建設され、そこに当院の保育所が引っ越してきました。

この写真は、その披露会と平成24年度終了式のもよう。

みんなげんきいっぱい!!

スクスク育って欲しいです。



編集後記

広報室 M

去年の秋は、よくご近所さんから季節の果物を頂戴し、おいしく頂いたのですが、その種を家の室内用 観葉植物の鉢に入れたら生えてくるのかな? という疑問と好奇心に駆られ、食べるたびにポイっと入れていたのです。そしたら、、、先日、本当に生えてきてまして(多分これは柿でしょう・・・) どうしようかと迷っておりますが、たぶん周囲の土と一緒に外の花壇へ移してあげるのがいいのでしょうか。。。

まだ、この他、アボカドも出てくる予定です(汗)



*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>

morimoto report

Vol.10
2013・May

<http://www.tachibana-med.or.jp/> 〒546-0014 大阪市東住吉区森合3丁目2番66号 TEL.06-6606-0010 (代表) Fax:06-6606-0055 創刊者: 志村博洋(美咲園) 山崎孝

橋会入社式

平成25年4月1日に医療法人橋会 平成25年度 入社式を開催しました。昨年度に引き続き、約80名の職員が入職。活気あふれる入社式となりました。



第21回東住吉森本病院 ICLS コース研修会実施

2013年3月3日に当院の講堂でICLS(Immediate Cardiac Life Support)を実施しました。院内外の医師、看護師、コメディカル等の医療従事者が対象で、日本救急医学会および大阪府医師会の認定ICLSコースを修了した者として受講者16名には受講証が交付されました。



第8回 関節リウマチ病診連携の会

開催日：2013/1/19(土) 15:30～17:10
場 所：ホテルアウイーナ大阪 3階 『生駒』

座 長：東住吉森本病院 整形外科・リウマチ科 部長 乾 健太郎先生

地域の医療機関の先生方と病診連携を行なう目的で実施されている第8回目の関節リウマチ病診連携の会が行なわれました。

本会は、2部の構成で、第1部は、当院、整形外科・リウマチ科 部長 乾 健太郎先生が、「実臨床で気になる、関節リウマチの症例提示 及び 米国リウマチ学会2012の話題から」という演題で講演しました。当院でMTX(メトトレキサート)を扱った3例の関節リウマチ患者症例について特徴的なエピソードを解説し、米国リウマチ学会2012の最新の話題についても触れました。

続いて第2部では、りんくう橋本リウマチ整形外科 橋本 英雄先生が、「関節リウマチ治療 ～クリニックにおけるT2Tの実践～」という演題で発表されました。リウマチ治療の変遷、臨床的寛解というリウマチ治療目標達成のための治療戦略-T2T(Treat to Target)治療の概念、クリニックで可能なT2Tの実践という流れで、臨床、保険請求に至るまで幅広い視野で解説されました。患者さんを中心に診療所・病院、双方の立場で意見提示があり、両者にとって有意義な会となりました。



南大阪循環器疾患病診連携クリニカルセミナー

開催日：2013/2/9(土) 17:30～19:30
場 所：スイスホテル南海大阪 7階 『芙蓉』

【基調講演】

座長：東住吉森本病院 院長・心臓血管センター長 瓦林孝彦先生
「心血管病予防因子としてのEPA」 ～久山町疫学調査の結果から～
講師：九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科 助教 二宮 利治先生

【パネルディスカッション】

【テーマ】「EPAの最新の知見」

座長：東住吉森本病院 院長・心臓血管センター長 瓦林孝彦先生
[パネリスト]
大阪府立急性期・総合医療センター 心臓内科 部長 森田 孝先生
東住吉森本病院 心臓血管センター・循環器内科 部長 坂上 祐司先生

【特別講演】

座長：大阪府立急性期・総合医療センター 副院長 福並 正剛先生
「循環器治療戦略におけるEPAの役割」 ～最新の知見～
講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学 教授 伊藤 浩先生

今回は、心血管系疾患の予防に有効なEPA(エイコサペンタエン酸)についての講演やパネルディスカッションが上記の先生方により行なわれました。

1970年代の疫学調査によりグリーンランドのイヌイットは、心血管系疾患による死亡率がデンマークの白人と比較して大変低いことが、認められており、イヌイットの血中に多く含まれているEPAが有効であることがわかっています。

従ってEPAを多く摂取することにより、心血管系疾患を予防できることが示唆されました。各講演では、このEPAの有効性に関して様々な調査結果や症例報告があり、80名あまりの参加者がありました。



第6回東住吉内視鏡ネットワークカンファレンス

開催日：2013/3/30(土) 17:00～
場 所：シェラトン都ホテル大阪 3階 『葛城の間』

【一般演題】

座長：東住吉森本病院 外科 副院長 田中 宏先生

「術前一時的適応(Bridge to Surgery)としての大腸ステント留置経験例」
東住吉森本病院 外科 形部 憲先生
「内視鏡的大腸ステント留置の実験」
東住吉森本病院 内科 高塚 正樹先生
「当院における東住吉森本病院との連携について」
矢野内科 院長 矢野 博之先生

【ミニレクチャー】

「内視鏡検査時の抗血栓剤の取り扱いについて」
東住吉森本病院 内視鏡部 部長 仲川 浩一郎先生

【特別講演】

座長：東住吉森本病院 内視鏡部 部長 仲川 浩一郎先生

「機能性ディスペプシア診療 ～これまでとこれから～」
講師：兵庫医科大 内科学 上部消化管科 大島 忠之先生

第6回東住吉内視鏡ネットワークカンファレンスが以下の要領で行われ、約80名もの参加がありました。一般演題最初は、昨年保険適応となった大腸ステントの話題について、外科と内科からそれぞれの視点での発表でありました。閉塞性大腸癌に対する姑息的治療としての有用性は明らかであり、手術可能症例に対する術前処置としても周術期のQOLや閉塞部より口側腸管の評価が可能などのメリットが大きいが、切除時の根治性を損なう可能性が危惧されることなど、ホットなディスカッションが行われました。本治療は、本邦で開始されたばかりの最新の治療法ですが、当院では比較的多くの経験を有していることから、その成績については、広く発信してゆく責務があると感じました。

次いで、矢野内科院長 矢野博之先生より、機能性ディスプラジアへのアプローチや、内視鏡検査における病診連携の現状についてご紹介いただきました。

一般演題の最後に、仲川内視鏡部長より、内視鏡検査時の抗血栓剤の取扱いについて、最近改訂されたガイドラインに沿った当院での対応について紹介しました。

特別講演では、FD(機能性ディスペプシア)について、何が判っていて何が判らないのか、今後、どのような展開が予想されるのか、など、非常に判りやすく解説いただきました。テンポよく、ユーモアも交えてのご講演に、出席の皆さんは引き込まれるように聴いておられました。

